

平成30年7月豪雨=西日本豪雨】 2018年6月28日~7月8日

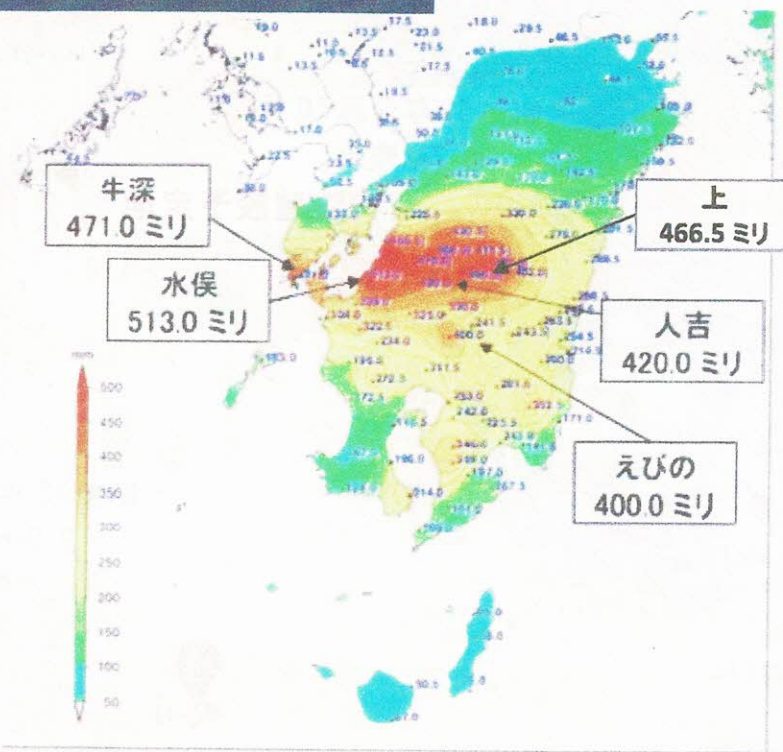
梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が大量に流れ込んだのが主因で、台風7号も影響。6月28日から7月8日までの総降水量が四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えるなど、7月の月降水量平年値の2~4倍となる大雨となったところがあった。また、九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位となるなど、広い範囲における長時間の記録的な大雨となった。各地で河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、広島県、岡山県、愛媛県を中心に死者・行方不明者が多数となった。

死者224人、行方不明者8人。住家全壊6758棟、半壊1万878棟、一部破損3917棟、床上浸水8,567棟、床下浸水21913棟(被害は18年度消防白書による)

令和2年7月豪雨の概要(気象概要)

雨量観測所	7月平均値	7/3 0時~7/4 24時	
	雨量 (mm)	雨量 (mm)	平年比
人吉(気)	471.4	420.0	0.89
上(気)	485.0	466.5	0.96
えびの(気)	798.0	400.0	0.50
水俣(気)	403.6	513.0	1.27
牛深(気)	309.7	471.0	1.52

(気象庁HP 各種データ・資料を参考に作成)



(福岡管区気象台HP 「災害時気象資料 令和2年7月3日から4日にかけての熊本県・鹿児島県の大雨について」の資料より抜粋及び一部加筆)

2018(H30)年7月豪雨は、川西市内でも5日~9日まで、表にあるように、もの凄い雨が降り続けました。人的な被害がなかったものの、土砂崩れが34件、橋梁被害(ゴルフ橋)1件、冠水3件、農業被害20件、市内19か所で通行止めとなり、道路が寸断されました。(川西市年間平均降雨量 1400mm)

大阪北部地震でも、高速道路は通行止めに、電車やバスは運休、様々な市民の移動ができなくなりました。踏切で遮断機が降りたまま緊急車両が通れなくなりました。

数年前から「想定外」という言葉が使われてきましたが、今やこのような自然現象は日常になり、毎年、どこで激甚災害が起こってもおかしくない状況にあります。南海トラフ巨大地震は、30年以内に8割の確率で来るといわれ、新しく書き替えられたハザードマップにおける「洪水浸水想定区域」は、「9時間に380mmという1000年超に1度の降雨により」と規定されていますが、30年後・1000年後に来るものではありません。毎年大きな河川の氾濫が起っています。

今年7月の九州豪雨は、1ヶ月分の雨が1日で降る、ハザードマップの想定区域で甚大な被害が起ったことが明らかです。しっかりとハザードマップを受け止め、住民の命・くらし最優先でこれからの街づくりを考えるべきではないでしょうか。

